



高度化、多様化、グローバル化

伊藤正樹・中外国島（株）社長



会社概要

- 業務内容 紳士・カジュアル・婦人服地製造
- 設 立 1924年(大正13年)
- 最新年商 50億円(連結)
- 従 業 員 140名
- 本 社 愛知県一宮市大和町馬引字焼野48番地
- 工 場 本社工場、上海工場
- ブランド 「COBO」、「CKK TEX」、「PEGASUS」など。

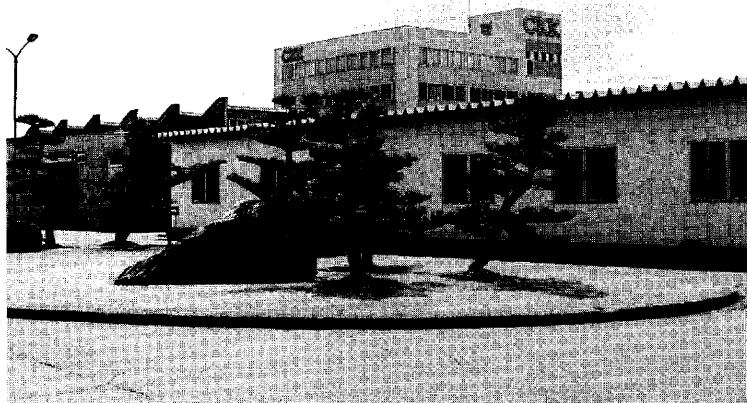
尾州産地を代表するテキスタイルメーカーで、創業は嘉永3年（1850年）と今年で153年を誇る名門である。伊藤さんは産地でも論客で通っているが、歴史を重視しつつも社内は「リベラル、ユース、システム」の雰囲気満載であふれている。リベラルは「規制緩和」であり、ユースは「若々しさ」であり、システムはコンピュータを含めた合理主義というわけだ。

最新の売上高は連結ベースで50億円、単体で35億円であるが、関連3会社（中外毛織直販＝テラー・イージー向け、東京ベルダム＝レディスフォーマル、日本ゲルハルド＝損害保険）と上海中外国島あわせて15億円となっている。

本体の商品構成は紳士服地20億円、カジュアル及婦人服地8億円、輸出3億円、CPC事業部（自動車部品など）4億円で、ブランドコンセプトはCOBOが国際展開を行うインターナショナルブランド、CKKはアパレル向け、ペガサスはテラー向けに細分化されている。このうちCOBOは昨年9月と今年2月のプルミエール・ヴィジョンでも高く評価された。「世界の素材を日本料理的に味付けした」と伊藤さん流に説明している。

同社の基本方針について伊藤さんは「PAN TEXTILISM T&Tである」と説明している。「1850年以來の当社のテキスタイルビジネスを、より確固たるものとし、更にこれを基盤として、高く、広くのびる（PAN）ことを狙おうというもので、テキスタイル&テクノロジー（T&T）はその裏付けです。技術なくしてファッションビジネスはあり得ません」と熱を込めて語っている。

社長に就任以来、引き続き掲げている方針は「高度化、多様化、グローバル化」であり、この方針から1997年に尾州毛織メーカーとしては初めて中国・上海に毛織工場を立ち上げた。「上海中外国島毛織有限公司」がそれで、32,158平方メートルの敷地に、6,680平方メートルの工場及び関連施設を建設した。上海中外国島毛織では高級毛織物、複合素材を生産しているが、伊藤さんは「単に物を作る工場ということではなく、市場としての中国をも睨んだ当社の拠点、基盤でもある」と位置づけている。



イタリアとの取り組みでスタートした国際ブランドCOBOも「高級化、多様化、グローバル化の方針から生まれた」素材だが、その今後についても「可能性は無限に広がる」と夢を語っている。

今後も目の離せない注目企業である。